

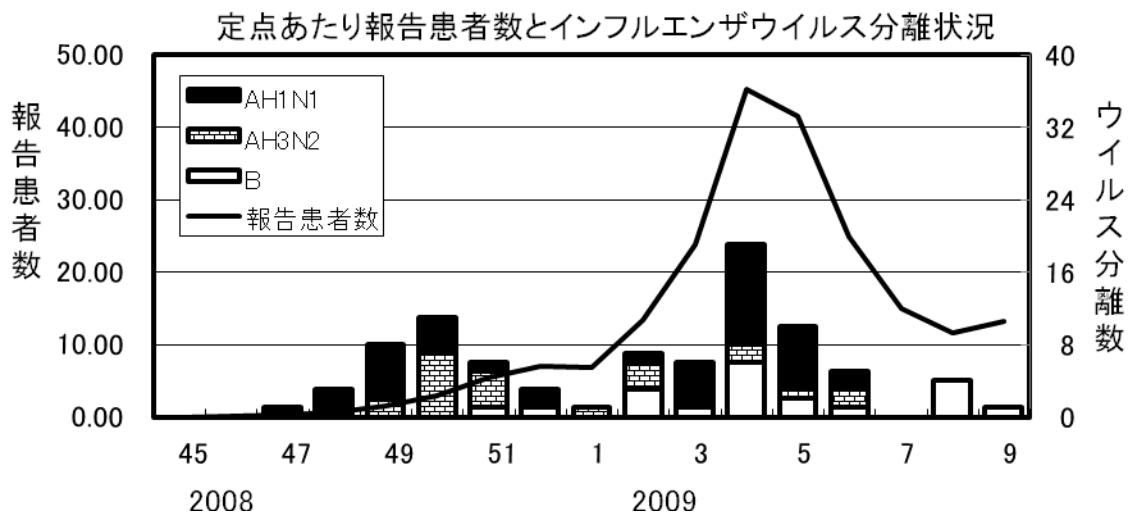
## インフルエンザ - 今冬の流行 (第2報) -

### (1) 定点あたり患者報告数の推移

今冬のインフルエンザ流行は昨冬よりやや遅く始まり、定点あたり患者報告数が 10.00 を超えたのは、2009 年第 2 週 (13.39) でした (下図)。しかし第 3 週に 23.89、第 4 週には 45.25 まで増加して今冬のピークとなりました。その後、暫減したものの、第 9 週 (3 月 1 日) でも 10.00 よりも高いレベルにあり、依然として注意が必要です。

### (2) ウイルス分離状況

2009 年第 9 週までに、埼玉県衛生研究所およびさいたま市健康科学研究センターで分離されたウイルスは、A ソ連 (H1N1) 型 43 株、A 香港 (H3N2) 型 22 株、B 型 20 株です (下図)。このことから、3 種類のウイルスが流行に関与していることがわかります。



### (3) オセルタミビル耐性マーカー変異 A ソ連型ウイルスの出現状況

今冬に全国で分離、解析された A ソ連型ウイルスの殆ど (2 月 28 日現在で 804 株中 799 株) に、オセルタミビル (タミフル) 耐性マーカー変異 (H275Y) が見いだされています (<http://idsc.nih.gov/jp/iasr/influ.html>)。埼玉県衛生研究所でも、県内で今冬分離され、これまでに解析が終了した A ソ連型ウイルス 22 株全てにおいて、オセルタミビル耐性を示唆する変異を認めました。今後、新たに分離されたウイルス株についても調査を継続する予定です。

\*「オセルタミビル耐性マーカー変異」: インフルエンザウイルスの持つノイラミニダーゼ蛋白の 275 番目のアミノ酸が、オセルタミビル耐性の A ソ連型ウイルスではヒスチジン(H)からチロシン(Y)に変化しているため、分離されたウイルスの遺伝子を解析してこの変異の有無を調べているものです。

病原体定点の先生方には、引き続き検体採取の御協力をお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://idsc.nih.gov/jp/iasr/rapid/index-kv.html>) でご覧になれます。